

## 頭に浮かべながら眠る

夜中に急に飛び起きて、電気つけ、どう思ったのか、「お金がないので、家に余裕がないので、英語通信添削の継続を断念したい」と手紙に書いた。かなり、あっさり書けた。ラブレターも、こう簡単に書けたら大変、自分が恐ろしくなるだろう。

今まで付き合ってた女性に対して、「もう付き合いをやめたい」なんて、断りの手紙を、いとも簡単に、すらすら書けたら、それは、余程、僕は冷酷な人間だろう。

まだ、付き合った女性も、一人もないのに、よくまあ、いろいろ考えること。自分ながら、あきれるばかりだ。

やはり、お付き合いする以上、真剣に申し込まねばならない。そうたくさん、僕が求愛する女性が、この世の中には、たまらない。

僕が歩む長い人生（短いかも）で、僕に取って、かけがえのない女性は一人で充分だ。

その女性の候補が、あの子だが、「初恋は破れる」という言い習わしがあり、僕の気持ちは、暗く、重い。そのまま、また、深い眠りに入った。